

2025年9月2日

MSPパートナー各位

Arcserve Japan

**『Arcserve® Cyber Resilient Storage シリーズ』販売開始、
『Arcserve® Unified Data Protection 10.2』リリース
のご案内**

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、弊社ではデータ保護ソリューションの新ラインアップ「Arcserve Cyber Resilient Storage（以降 CRS）シリーズ」、およびバックアップの定番 Arcserve UDP の最新版「Arcserve UDP 10.2」をリリースする運びとなりましたので、ここにご案内申し上げます。

Arcserve Cyber Resilient Storage（CRS）シリーズは、Arcserve UDP のバックアップ データ保護に特化したイミュータブル（不変）ストレージで、オンプレミス型・クラウド型の 2 タイプのストレージを要件に応じて使い分けいただけます。使い慣れた「Arcserve UDP コンソール」でリストア操作を行えるため、いざという時でも安心して業務継続作業を行えます。なお、バックアップ アプライアンス「Arcserve UDP Appliance」の 2 次バックアップ ストレージとしても利用いただけます。

Arcserve UDP 10.2 では、CRS シリーズと連携するための機能を追加し、その他にもいくつかの機能拡張を行っています。

2025 年 8 月 21 日に先行リリースしておりますが、CRS シリーズなど新機能のサポートは 2025 年 9 月 3 日から開始いたします

オンプレミス用 CRS のインストーラを含めた「新メディア キット」をリリースいたします。これに伴い、メディア キットの価格を改定いたします。

詳細は各別紙をご覧ください。

別紙 1 『CRS シリーズ』販売開始

別紙 2 『Arcserve UDP 10.2』リリース

別紙 3 『新メディアキット』リリース

MSP パートナー様におかれましては、今後とも「Arcserve® シリーズ」の拡販にご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

『CRS シリーズ』 販売開始

CRS シリーズ

<主な機能・特長>

CRS シリーズは、統合データ保護ソリューション Arcserve UDP のデータをランサムウェア等のサイバー攻撃から守るイミュータブル（不変）ストレージです。Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ（RPS）のデータ ストアとして利用できます。要件に応じてクラウドおよびオンプレミスを使い分けいただけます。

*CRS シリーズの利用には、Arcserve UDP 10.2 以上の復旧ポイントサーバ（RPS）が必要です。

・変更不可のイミュータブル スナップショットを自動的に取得

イミュータブル スナップショットはデータ ストア作成時に指定する取得時刻や保存期間に沿って自動的に取得され、保存されます。ランサムウェアやその他サイバー攻撃者は、“イミュータブル（不変）な”スナップショットを変更することができないため、万が一バックアップ データが破壊された場合でも、破壊される前の状態に復旧することができます。イミュータブルなデータストアは 1 次バックアップ先として利用可能です。（Arcserve UDP Appliance では 2 次バックアップ先）

・統合管理コンソール「Arcserve UDP コンソール」で容易に管理可能

CRS シリーズは統合管理コンソール「Arcserve UDP コンソール」により管理され、データストアの格納先としての指定やスナップショットの設定を容易に行えます。UDP ユーザーにとって使い慣れている Arcserve UDP コンソールから、バックアップ データの保存先を選択し、簡単に管理することができます。

・継続的な増分バックアップ、重複排除、圧縮によるストレージの効率利用

CRS シリーズは RPS のデータストア として使われるため、Arcserve UDP により継続的な増分バックアップ/重複排除/圧縮が行われます。効率的なストレージ利用により、ランサムウェア対策の必須要件であるバックアップ世代の複数保持をコスト面で支援します。

[Arcserve CRS シリーズ 3つの製品/サービス]

Arcserve Cyber Resilient Storage (CRS)

LAN 内での大容量データのバックアップを想定しています。OS を含めたソフトウェア形式での提供となります。CRS をインストールするサーバ ハードウェアが必要です。

Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage (クラウド CRS)

RPS からインターネット経由で Arcserve のクラウド ストレージにデータを保存します。ハードウェアを追加購入することなく、既存の RPS にランサムウェア対策を追加できます。

Arcserve Cloud Storage (ACS)

クラウド CRS からイミュータブル機能を省いたクラウド ストレージです。RPS の 2 次バックアップ先を手軽に追加したい場面での利用を想定しています。

◆ 受注・出荷スケジュール：

[ライセンスプログラム製品] [新メディアキット]

受注開始日：2025 年 9 月 3 日（水）

出荷開始日：2025 年 9 月 8 日（月）

※メディアキットの詳細は別紙 3 をご覧ください。

◆ CRS シリーズの SKU、価格

Arcserve Cyber Resilient Storage シリーズ価格表

製品名称	提供形態	SKU（型番）	価格 （税抜）	総額 （税込）
Arcserve Cyber Resilient Storage （CRS）				
Arcserve Cyber Resilient Storage 1 TB	1 年サブスクリプション	NCRSACSWCRJ01TS12C	¥36,000	¥39,600
Arcserve Cyber Resilient Storage 1 TB	3 年サブスクリプション	NCRSACSWCRJ01TS36C	¥108,000	¥118,800
Arcserve Cyber Resilient Storage 1 TB	5 年サブスクリプション	NCRSACSWCRJ01TS60C	¥180,000	¥198,000
Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage （クラウド CRS）				
Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage 1 TB	1 年サブスクリプション	NACSACSWCLJ01TS12C	¥60,000	¥66,000
Arcserve Cloud Storage （ACS）				
Arcserve Cloud Storage 1 TB	1 年サブスクリプション	NACSACSTCLJ01TS12C	¥36,000	¥39,600

※詳細については、受注開始日に弊社 Web に掲載予定の[価格表](#)をご確認ください。

以上

別紙 2

『Arcserve UDP 10.2』リリース

Arcserve UDP 10.2 に含まれる主な点は以下です。

新機能

Arcserve Cyber Resilient Storage シリーズ（以下 CRS シリーズと省略）との連携： Arcserve UDP 復旧ポイント サーバ（以下 RPS と省略）のデータ デスティネーションとして、クラウドおよびオンプレミスの CRS を使用できます。CRS の管理と設定は UDP コンソールから透過的に行えます。

これによりデータ ストア全体のイミュータブル スナップショットを CRS に作成し、ランサムウェアやその他の脅威に対する保護を強化できます。

Arcserve Cloud Storage（以下 ACS と省略）との連携： RPS のデータ デスティネーションとして、ACS を使用できます。

クラウド（AWS/Azure/Google Cloud）データ ストアのサポート： Amazon S3、Azure Blob Storage、Google Cloud Object Storage に RPS のデータ ストアを作成し、一次バックアップ先として利用できます。本機能を利用するには、Arcserve UDP Premium Edition が必要です。

拡張機能

Linux エージェントの強化

新しい対応プラットフォーム

Red Hat Enterprise Linux 9.6

Oracle Enterprise Linux 9.6

Rocky Linux 9.6

AlmaLinux 9.6

Debian 12.9、12.10

Ubuntu 24.04 - 6.11 カーネルのサポート

Oracle Linux（OEL） 8.5 以降のリリースでは、Unbreakable Enterprise Kernel（UEK）との自動ドライバ統合が完全にサポートされています。

脆弱性対応

Arcserve UDP 10.2 には以下の技術情報で説明されている脆弱性への修正が含まれています。Arcserve UDP をご利用のお客様には Arcserve UDP 10.2 へのアップグレードをお勧めします。

◇ **2025 年 8 月 Arcserve UDP 脆弱性とその修正モジュールについて**

<https://support.arcserve.com/s/article/2025082101?language=ja>

その他

Arcserve UDP 10.2 に含まれるその他の機能や不具合修正は、以下のリリース ノートをご参照ください。

◇ **Arcserve UDP 10.2 リリース ノート**

https://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/10.0/JPN/Bookshelf_Files/HTML/Update2/default.htm

◆ **Arcserve UDP 10.2 のインストール/ダウンロード方法**

Arcserve UDP 10.2 のインストール/ダウンロード方法は以下のナレッジ ベースをご覧ください。

インストーラのダウンロードには Arcserve サポート ポータルへのログインが必要です。

◇ **Arcserve UDP 10.2 のインストール・アップグレードについて**

<https://support.arcserve.com/s/article/2025082102?language=ja>

◇ **Arcserve UDP 10.2 ダウンロード**

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-10-2-Download-Link?language=ja>

◆ **Arcserve UDP 10.2 受注・出荷スケジュール**

[ライセンスプログラム製品]

受注開始日：2025 年 9 月 3 日（水）

出荷開始日：2025 年 9 月 5 日（金）

【メンテナンス付きパッケージ製品およびメディアキット】

10 月上旬の提供を予定しております。

◆ 各ライセンス製品の価格、SKU、JAN コードについては変更ありません。

◆ サポート終了製品はありません。

◆ 補足

今回リリースする Arcserve UDP 10.2 は、2024 年 11 月にリリースした Arcserve UDP 10.0 のマイナーリリースの位置づけとなります。

- ・ Arcserve UDP 10.x で登録したライセンス キーをそのままご利用いただけます。（キーの入れ替えは不要です。）
- ・ Arcserve UDP 10.1 および 10.2 は Arcserve UDP 10.0 と同じサポート ライフサイクルで管理されます。なお、「Arcserve UDP 10.x」と表記した場合は Arcserve UDP 10.0 および 10.0 の全マイナー リリース（10.1 および 10.2 など）が対象になります。

以上

別紙 3

『新メディア キット』リリース

Arcserve Cyber Resilient Storage（CRS オンプレミス版）のインストール メディアが追加された、新しいメディア キットをリリースいたします。新しいメディア キットは、新型番、新価格となります。

従来から提供しております「メディア キット」と併売期間を設けております。

新メディア キットでは、Arcserve UDP 10.0 のインストール メディアが同梱されており、Arcserve UDP 10.2 のメディアは含まれておりません。Arcserve UDP 10.2 が同梱されたメディア キットは 10 月上旬の提供を予定しております。

◆ 新メディア キットの販売開始

受注開始日：2025 年 9 月 3 日（水）

出荷開始日：2025 年 9 月 8 日（月）

◆ 新メディア キットの SKU、価格

製品名称	SKU	JAN Code	価格 (税抜)	総額 (税込価格)
Arcserve Media Kit Japanese (UDP/Backup/RHA/CRS)	NAMK0000BXJ	4949013979797	¥20,000	¥22,000

◆ 現行メディア キットの販売終了

最終受注日：2025 年 11 月 28 日（金）

最終出荷日：2025 年 12 月 3 日（水）

以上